

ころばん体操 出前講座 西浜町公民館

平成28年10月5日(水) 13:30~15:00

参加者 計13名 (男性3名 女性10名)

【講話】

I・「いつまでも自宅で暮らすために」…(在宅医療)

いちき串木野市包括支援センター 保健師 久保小百合

日本人の死亡率は…? 会場に質問

人は必ず亡くなる 100%の死亡率です。どこで最期を迎えたいか、どんな生活を受けながら最期を迎えたいか一人一人がこれを機会に考えてみてください。健康年齢は、だいたい10年と言われています。地域で支え合って元気で自宅で過ごしていけることが大事です。が介護が必要になってしまう事もこれから少し考えてどこでどう暮らしたいか元気な時に考えておいてほしいと思っています。

市が行った地域のアンケートでも自宅で最期まで暮らしていきたい人が41%、考えたことがない人36.3% 病院の人は11%でした。やはり自宅で最期まで暮らしたい人が多いです。

II・ 「がんばりすぎない介護を応援します」 ~退院支援について~

いちき串木野市医師会 在宅医療・介護連携推進事業 コーディネーター 南新敦子

退院に向けて入院中から院内スタッフ、在宅関係スタッフが連携を取り在宅生活への準備を支援します。ご家族の介護負担がすこしでも軽くできるようにサポートしていく相談も受けています。介護度や高い患者さんや医療が必要な時でも、訪問看護等を利用しながら自宅生活を続けられるようサポートしていきます。家族や、ご本人の思いに沿って在宅での生活を希望され退院された事例を聞いて在宅支援のイメージを知っていただきたいと思えます。



参加者の声

- ❖ずっと西浜町に住んでいきたいと思っています。
- ❖「ポックリがいいですよ〜」…(声をそろえてのご意見)
- ❖ピンピンころりがいいですね〜「今でもいいです。」(笑い)
- ❖娘に自宅介護を頼んだら「うんにゃ〜」って返事するかもな…
- ❖自分で思っている、なかなか思うようにはいかんしなあ
- ❖在宅では家族が吸引してもいいんですよ、でも老人ホームで入所中だと家族が勝手にしたらいけないのはなぜでしょうね…家族として少し納得いかないのと残念な気持ちがあります。(以前父が入所していて思ってことでした)

施設の事情もお話したところでした。
色々な思いをお聴きし、率直なご意見を伝えていただく機会となりとても勉強になりました。